NCJTA NEWSLETTER
北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association
http://www.ncjta.net
第 45 号・2016 年　10 月発行

北加日本語教師会　2016 年秋の例会
Saturday, October 29
Berkeley City College

会長挨拶

会長挨拶
永田憲子

秋学期も半ばを迎え、皆様お忙しく、ご活躍のことと存じます。この度、北加日本語教師会 (NCJTA) の会長を務めさせて頂くことになりました永田憲子でございます。私の他にも数名の新任が加わり、以下のメンバーで、役員を勤めさせて頂きます。今後とも、皆様方のご支援、ご指導をよろしくお願い申しあげます。

- 会長 (新任) ：Noriko Nagata 永田憲子 University of San Francisco
- 副会長：Masahiko Minami 南雅彦 San Francisco State University
- 会計：Seiko Kosaka 高坂聖子 City College of San Francisco
- ニュースレター編集：Wakae Kambara 神原若枝 University of California, Berkeley
- 書記 (新任) ：Kyoko Suda 須田恭子 University of San Francisco
- 広報：Masako Shimizu 清水真佐子
- フランク連絡員 (新任)：Masahiko Minami 南雅彦 San Francisco State University, Nobuko Takamatsu 高松信子 San Francisco State University/University of San Francisco
- ウェブ担当・メール名簿管理 (新任) ： Koraku Mikami 三上香楽 Eimei University

- 小学校代表 (新任)： Kaori Waki 和氣かおり Rosa Parks Elementary School
- 中学校代表：Rie Tanaka 田中理恵 Presidio Middle School
- 高校代表：Tomokazu Morikawa 森川知計 George Washington High School
- 学園代表：Yoko Uda 宇田陽子 Soko Gakuen
- コミュニティーカレッジ代表 (新任)： Nobuko Takamatsu 高松信子 San Francisco State University/University of San Francisco
- 大学代表：Junko Ito 伊藤潤子 University of California, Davis

つきましては、先月さっそく新しいメンバーで役員会を開きました。役員の一人が、NCJTAの役割を問いただしたのをきっかけに、あらためてNCJTAの歴史、活動を考える機会となりました。私自身、NCJTAには20年以上属しております（年が分かってしまいますね！）。途中フランク連絡員としてNCJTAの役員にもなり、2004年から2年間は、FLANC (Foreign Language Association of Northern California) の会長も勤めました。NCJTAは年に2回、秋と春に学会を開いており、秋はFLANCの学会に統合したかたちになっております。私がサンフランシスコ大学に赴任してきた初めての年、グラント先生 (当時NCJTAの会長) の薦めで、FLANC／NCJTAの学会に参加し、そこで私の論文を発表させて頂きました。NCJTA会員の先生方が多く集まり、熱心に発表を聞いて下さいました。私にとって、先生方と実りある意見交換ができて、新参者を受け入れて頂くすばらしい機会となりました。その後NCJTAとの長いお付き合いから考えますと、NCJTAの役割は、まずこのベイエリア・北カリフォルニアの日本語の先生方と交流する絶好の場所であるということです。そこで日本語教育に関する発表やワークショプが行われますので、最新の教材や教授法を学んで、刺激を受け、自分の教育改善にも役立てることができます。また、小学校・学園から大学まで幅広いレベルの先生方が会員になっているので、横だけではなく縦とのつながりがもて、幼少から大人までの一環した日本語教育が把握できます。また、日本語教師募集や各教育機関のイベント情報が交換でき、ソーシャル・ネットワーキングの場にもなっています。さらに、サンフランシスコ総領事館や北加日米会とも連携して、日本語教育、日本文化活動に積極的に取り組んでいます。これから、NCJTAの会員次第で、さらなるNCJTAの発展が可能かと存じますので、ご意見・ご提案がございましたら、是非お知らせください。

最近、日本で地方の活性化というのをよく耳にします。NHKの「サキどり」という番組でも、頻繁にその例をあげています。たとえば、32歳の女性が東京の大手コンサル会社を辞め、秋田県に移住し、地元の日本酒とフルーツをセットにした定期販売のビジネスを始めた話がありました。また、青森県のりんご農家が、りんご作りの魅力と奥深さを伝えるために、りんご畑にしゃれた、快適なキャンプ「グランピング」を設けて、一泊二日でアウトドアレジャーを体験してもらおうという話がありました。このベイエリアでも日本語教育にさまざまなアイデア（最新のプロジェクト・ベース、コンテント・ベース、インターネット活動など）を取り入れて、画期的な日本語教育を押し進めていらっしゃる先生方も多々おられます。これからも、皆様方のご協力を得て、日本語教育のさらなる活性化に取り組んで行けたらと、願っております。

NCJTA
2016
秋の例会

北加日本語教師会秋の例会
NCJTA Fall Conference

NCJTA Fall Conference
10 月 29 日(土)@Berkeley City College

NCJTA 秋の例会は、FLANC の秋の例会の昼食の時間を使う形で行なう予定です。FLANC の例会では、午前、午後とも日本語関係の発表が予定されています。奮ってご参加下さい。

- 日時：10 月 29 日（土曜日）　12 時－1 時
- 場所：Berkeley City College
- 申し込み締め切りは **10 月 7 日（金曜日）で既に過ぎておりますが、当日 FLANC の受付で直接**申し込みが可能です。

NCJTA 会計から

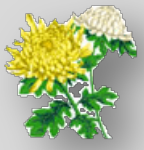
NCJTA 会計から

NCJTA の会費は一般 15 ドル、学生 5 ドルです。2016 年度分の会費（2016 年 1 月から 12 月まで有効）を未納の方は、本ニュースレターに添付の年会費納入用紙とともにご郵送くださるか、秋の例会でお支払いください。昨年までの会費が未納の方も、今年のみの会費で結構です。

秋の例会は例年通り、FLANC の一部として 10 月 29 日に Berkeley City College にて開催されます。尚、事前のグループ登録は 10 月 7 日で終了いたしましたが、当日直接 FLANC の受付にて登録することも可能です。詳しくは FLANC のホームページ(http://fla-nc.org/wp/)をご覧ください。

（文責：高坂）

秋の役員会
議事録



2016 年 秋の役員会議事録

日時：2016 年 9 月 11 日午前 10 時より午後 12 時半まで
場所： Kalmanovitz Hall 265, University of San Francisco
出席者：永田、南、高坂、神原、三上、和氣、田中、森川、宇田、高松、伊藤、須田（順不同）
議題

- 新会長、新役員、旧役員顔合わせ、役員の役割表明と確認
- 会員登録・会費納入について
  - 9 月 11 日現在会員数 136 名
  - ウェブ登録・会費納入の検討、今後の話し合いが必要
  - 会員登録・会費納入の更新を促すメール送信の徹底強化
- 秋の例会について
  - FLANC と 10 月 29 日（土）に合同開催 (Berkeley City College)

- 日本語関係発表者 4 名
- 会費 10 ドル（グループ割引）
- 昼食を 15 ドルで提供（「むさし」に弁当とお茶注文）
- 昼食時に NCJTA の懇談会（役員会はなし）

- ニュースレターについて
- 日本語弁論大会について
  - 北加日米会とサンフランシスコ総領事館主催の日本語弁論大会に NCJTA も共催決定
  - 当日ボランティアの募集
  - NCJTA から例年通り 100 ドルの寄付
- 春の役員会の日時
  - 2017 年 1 月 29 日（日）
  - 場所はサンフランシスコ大学、又はサンフランシスコ州立大学

（文責：須田）

2016 年
NCJTA 春の例会
報告

春の例会
第 9 回「日本語実用言語学国際学会」と併催

6 月 4 日、5 日の両日、サンフランシスコ州立大学で第 9 回「日本語実用言語学国際学会」が開催され、当教師会役員と会員がコーデイネートや受付などで全面的に協力しました。

学会中行われた、本年度の春の例会では、高松前会長から、永田新会長に引き継ぎが行われました。

（文責、写真：清水）

『言葉の窓』

「言葉の窓」
各レベルの代表より

小学校レベル

サンフランシスコ市内には、日本語を教える二つの小学校があります。Clarendon 小学校と Rosa Parks 小学校です。この二つの小学校には JBBP (Japanese Bilingual Bicultural Program) と呼ばれるプログラムがあります。JBBP では、英語による確立されたカリキュラムのほか、日本語と日本文化を学ぶことができます。広い視野を持って、生涯教育の基礎となりうるような教育基盤を形成することを目的としています。

JBBP では、下記のような、いくつもの文化的な日本の行事が行われています。
「敬老の日」、「お月見」、「運動会」、「文化の日」、「お話大会」、「学芸会」、「お正月」、「ひな祭り」、「桜祭り」、「子どもの日」、「お別れ式」

そして、今、ローザパークス小学校では来たる運動会に向けて、練習や準備を進めています。運動会当日は、全員で「運動会の歌」を歌い、ラジオ体操を行って体の準備を整えます。「徒競走」「大玉転がし」「障害物競走」「玉入れ」等の様々な種目を、赤組、白組に別れて一日中熱戦を繰り広げるのです。保護者が参加できる種目もあります。「玉入れ」「綱引き」は保護者も参加し、児童以上に熱く燃え上がっています。日本の運動会に勝るとも劣らない経験をアメリカの小学校で体験できるのです！

クラレンドン小学校の運動会は、JBBP が、同じ校内にあるほかのプログラム、セカンドコミュニティー（SC）と特殊学級を招待して開催しています。日頃あまり日本文化になじみのない児童や保護者にも、日本のことを知ってもらうよい機会となっており、JBBP の子ども達はもちろん、全校児童が紅白のはちまきを締め、「フレーフレー赤組／白組！」「がんばれ、がんばれ！」と日本語で元気に声援をあげています。伝統的な「玉入れ」や「だるま運び」、「借り物競争」をアレンジした楽しい競技は、子ども達に大人気です。

（文責：橋本、和氣）

中学校レベル

中学校では外国語は必修ではありません。そのため、現在北カリフォルニアの 7 校の中学校では、学校によっては選択科目として、または 3 年間の必修日本語プログラムとして、様々な形態で授業が行われています。学校や形態は違っても、共通する相手は思春期真只中のエネルギーが有り余る中学生たち。どの先生方も学級運営と日本語の授業のバランスを考えながら、工夫して授業を進めているようです。どの中学校にも日本語教師は一人ずつしかおらず、中学生対象の教科書や教材もないので、北カリフォルニア中学校日本語教師同士、情報交換をしながら、中学生たちに負けないエネルギーで中学校での日本語を盛り上げていけたらと思っています。

（文責：田中）

高校レベル

高校レベルの日本語教育では色々な方面から改新を求められているような状況があります。まず、いろんな要素の格差社会が広がっている地域で、それが子供たちの教育にかなりの影響を与えています。ホームレスの学生、家庭内で問題がある学生、貧困状態の家族等、十代の子供達は様々な荷物を心に抱えてクラスにやってきます。それと学歴重視の社会傾向の中で、卒業するための必修科目に外国語が含まれている学校がほとんどで、特に 2 年間分の単位を修得しないと卒業できない学校も多いです。そうなると、いろんな障害を持った学生も卒業するために、外国語を二年間習得しなければいけません。例えば、今、私の日本語 1 のクラスの一つは、30 数名のうち、10 名が知的障害を持っています。彼らも 2 年間分の日本語単位を修得しないと卒業できません。障害の種類／程度にもよりますが、読み書きに苦労している学生が多いです。こういう環境の中で、外国語／日本語教育を考えると、単に日本文化や言語を教える教授方法や経験を積むだけでなく、教育者として色々な面から学生と付き合っていく努力と知識が必要とされています。

もう一つは、アドボカシーの一環として、日本への研修旅行、日本の高校との姉妹校活動、日本語関係のイベントや大会をされる地域や学校が多くなりました。NCJTA や CAJLT 主催の日本語スピーチ大会に参加するだけでなく、カラオケ大会、日本語アート展など学生達の多岐にわたる能力が発揮出来るようなイベント作り、夏の学生研修旅行や日本からの学生訪問の手配／準備等、
教室外でも高校の先生方も、日々頑張っています。今学年も応援よろしくお願いします！

（文責：森川）

学園

学園が他の教育機関と大きく違うのはその学生の幅の広さです。下は幼児から上は仕事を退職した方まで、それぞれが違う目的を持って日本語を学んでいます。子供達にとっては継承語としての日本語を学ぶ場として、そして大人にとっては旅行、趣味、仕事または生涯学習の場として、学園はその役割を果たしています。
そのため教師は、時に学習者の要求に柔軟に応えることが求められます。また教師がコミュニティーの一員として地域の行事やお手伝いに積極的に関わっていくことも大きな役割の一つです。

（文責：宇田）

大学レベル

大学代表のレポートとして、今回はカリフォルニア大学デービス校の近況を報告させていただきたいと思います。我が校では、2 年前から日本語熱が急に高まり、異常現象が起こっています。去年も今年も日本語 1 のクラスのウェイトリストに 100 名以上の学生がいて、新学期が始まる直前に新しいセクションがオファーされました。今年の日本語 1 のクラスは 14 セクションあり、日本語 1 のレベルだけで 350 名以上の学生がいます。そのうち約 8 割が中国人の学生で、日本語を履修する中国からの留学生の数が急増しています。 現在、2 年生のクラスでは約 100 名、3 年生のクラスでは約 60 名の学生が履修しています。この現象がいつまで続くのか分かりませんが、中には英語が分からない学生がいたり、留学生の増加に伴う問題も生じています。これから、大学代表として、会員の先生方の大学の状況を伺い、大学の横の繋がりを築いていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

（文責：伊藤）

日本語教育関連ニュース

J-Leap 米国若手日本語教師派遣事業

J-Leap 米国若手日本語教員派遣事業 (http://www.jflalc.org/jle-j-leap.html)から、植篠菜摘さんがサンノゼのシルバー・クリーク高校（ニコラス・スターテバンド先生）に、河野力也さんがサンフランシスコのプレシディオ中学校（田中理恵）に２年間派遣されます。チームティーチィングを行うことで、日本語の授業をさらに盛り上げ、プログラムを強化していきたいです。

（文責：田中）

森川知計先生
サンフランシスコ市 16 年度最優秀教師賞受賞

北カリフォルニア日本語教師会の役員森川先生（ジョージワシントン高校）が、サンフランシスコ市から、公教育の貢献したとして、本年度最優秀教師賞に選ばれました。5 月に、ATT パークに於いて、満場の観客の前エド・リー市長から紹介された（写真参照）ほか、パレスホテルで受賞記念式典がおこなわれました。森川先生は、独特なプロジェクトベースの教授法で知られ、また東北大震災の支援活動にも取り組むなど、活発な活動が高く評価されたもの。北カリフォルニア日本語教師会の役員のほか、AP Japanese テストや地元日系コミュニティーにも貢献していることも評価された理由の一つだそうです。

（文責：清水）

お知らせ

総領事館インフォメーションセンターから

1. 第 43 回日本語弁論大会のお知らせ

北加日米会、北加日本語教師会及び在サンフランシスコ日本国総領事館は、第 43 回日本語弁論大会を以下の通り開催します。本弁論大会は、より多くの皆様に日本語を学習していただき、日頃の学習成果を披露していただくことを目的に行います。参加及び入場は無料です。奮ってご参加ください（詳細は当館ホームページをご参照願います）。

【日時】2016 年 10 月 23 日(日)
午前 10 時: 中高校生の部、午後 1 時半: 大学・成人の部
【会場】New People Cinema　(1746 Post Street, San Francisco, CA 94115)
【総領事館ホームページ】http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/itpr_ja/m07_02_06.html

2. JET プログラムの募集開始

JET プログラムの募集が 10 月に始まります（応募書類は在アメリカ合衆国日本国大使館のホームページから入手可能です）。JET プログラム（The Japan Exchange and Teaching Programme）とは、アメリカをはじめとする外国の青年を日本の地方自治体で雇用し、学校における英語教育の充実と地域の国際交流の推進を図る事業です。JET 参加者はいずれも大都市から地方の中小都市や農村漁村まで、全日本の津々浦々に配置されます。日本や国際交流に関心のある学生の皆さんに是非ご案内ください（なお、大学卒業が応募要件の一つとなっています）。

3. 年賀状コンテストの開催

当館は、小学生及び中学・高校生を対象にした「年賀状コンテスト（2017 年酉年）」を今年も開催します。詳細は改めてご案内しますが、12 月から 1 月中旬にかけて作品を募集し、1 月後半以降、当館広報文化センターにおいて応募い

ただいた全ての作品を展示する予定です。昨年は 500 点以上の作品が集まり、審査にも大変力が入るコンテストとなりました。今年も是非奮ってご応募ください。

第 43 回日本語弁論大会開催のお知らせ

北加日米会および在サンフランシスコ日本国総領事館は、第 43 回日本語弁論大会を以下の通り開催します。本弁論大会は、より多くの中高生や社会人に日本語を学習してもらい、日頃の日本語学習の成果を披露してもらうことを目的に行います。参加および入場は無料です。

なお、今年度より、北加日本語教師会も共催団体として、弁論大会を通して日本語の普及ばかりでなく日本社会ならびに日本文化のさらなる理解、推進に貢献することとなりました。

日時：2016 年 10 月 23 日（日）午前 10 時：中高校生の部
午後 1 時半：大学・成人の部
場所：New People Cinema（住所：1746 Post Street, San Francisco, CA 94115）
お問い合わせ：在サンフランシスコ日本総領事館広報文化センター
文化事業コーディネーター 馬場真莉子宛
電話：415-780-6088
メール：baba.mariko@sr.mofa.go.jp （文責：南）

ワークショップ・イベントのおしらせ

- *Foreign Language Association of Northern California*（FLANC）Fall Workshops and Conference
  - 日時：10 月 29 日（土）9:00 AM – 3:20 PM
  - 場所： Berkeley City College, 2050 Center St., Berkeley, CA 94704

外国語教師の学会としては全米でも最大規模（1 万 2 千人が会員登録）、そして全米で最も権威ある American Council on the Teaching of Foreign Languages（ACTFL）で、2012 National Language Teacher of the Year（全米語学教師 2012 年賞）を受賞された安座間よう先生に基調講演を依頼しています。FLANC 秋学会では複数の発表も同時に開催されますが、ここでは日本語発表のみをご紹介します。皆様、ご期待ください。（プログラム全体の内容は以下のサイトでご覧頂けます。http://fla-nc.org/wp/2016/09/13/conference-program-flanc-2016/）

- Second Interest Session 10:00 AM – 10:50 AM (Room 51)

Quandaries about “Can”: Choices for the Potential Form in Japanese
Masahiko Minami, San Francisco State University

The potential case or “can form” is typically used in English to denote the ability to do something. In Japanese we often come across two different types: the so-called proper standard form on the one hand and the sub-standard, technically incorrect grammar, which is sometimes called *ra-nuki*, on the other. This presentation investigates these two types of potential forms, from the perspective of descriptive grammar rather than prescriptive grammar.

- Keynote Speech 11:00 AM – 11:30 AM

The Teacher as an Artist: Inspire and Engage Learners in the 21st Century World Language Classroom

Mr. Yo Azama currently teaches Japanese at North Salinas High School and World Language Teaching Method course at California State University, Monterey Bay is a team leader of the Monterey Bay World Language Project. He has conducted numerous presentations and seminars regionally, nationally, and internationally on various topics including; Motivational Curriculum & Syllabus Design, Classroom Management, and Effective use of Technology in World Language Classroom. In 2003, he served as a member of the Instructional Materials Advisory Panel for the California Department of Education. He has also served as a College Board Advisor for AP Japanese Language and Culture Development Committee.

Mr. Azama has been the recipient of numerous awards, such as the 2012 ACTFL Language Teacher of the Year, Outstanding Teacher of America Award by Carlston Family Foundation, the Robert J. Ludwig Distinguished Leadership Award, and Elgin Heinz Teaching Excellence Award. Mr. Azama's teaching has been featured in the *Teaching Foreign Languages K-12 Video Library* by WGBH Boston in 2003. http://www.learner.org/libraries/tfl/japanese/azama/analyze.html

- Third Interest Session 1:30 PM – 2:20 PM (Room 51)

Gateway to Content-based Instruction
Noriko Nagata, University of San Francisco
Kyoko Suda, University of San Francisco

Michi (The Path: Exploring Japan) affords content-based instruction (CBI) and explores the histories and cultures of the various regions of Japan in authentic Japanese language. It aims to develop learners' cultural knowledge as well as intermediate/advanced level Japanese proficiency, incorporating the ACTFL 5 C's. In this session, the first presenter describes the motivation and purpose of the textbook, its chapter components, and its unique features. The second presenter reports the implementation and outcomes of the gateway chapter of *Michi*, which provides a bridge from standard 2nd year texts.

- Fourth Interest Sessions 2:30 PM – 3:20 PM (Room 51)

Sample Chapters of a Content-based Textbook for Intermediate/Advanced Japanese
Noriko Nagata, University of San Francisco
Nobuko Takamatsu, University of San Francisco

This session presents sample chapters of a new, content-based, proficiency-oriented Japanese textbook *Michi* (The Path: Exploring Japan) for Intermediate/Advanced Japanese. The presenters address key elements of successful CBI, including abundant cultural images and detailed vocabulary information, which significantly facilitates reading comprehension. The presenters also describe various CBI activities based on the textbook, and discuss effective CBI techniques.

- グループ事前登録に関して、会員の皆様にはメールでくりかえしお知らせしてまいりました。通常 FLANC メンバー（$50）ノン・メンバー（$65）の登録料と比べて、グループ事前登録は$10 とお得になっていましたが、残念ながら 10 月 7 日に締め切りました。グループ事前登録されなかった方は、誠に恐れ入りますが、当日個人でご登録いただくことになります。ご理解ください。
  - NCJTA 秋の例会は、昼食時に行なう予定をしています。
  - 例会とワークショップは、ネットワーキングの場としてご活用いただけるよう極力配慮いたしますので、どうかふるってご出席ください。

（文責：南）

日本語能力試験（Japanese Language Proficiency Test）のお知らせ

習得した日本語能力を客観的に測定し、これを公的に認定する制度である『日本語能力試験』が、今年度もサンフランシスコ州立大学で 12 月 4 日（日）に実施されます。試験監督としてご協力いただいている経験豊富な先生方にはたいへんお世話になっております。

試験会場も年々増加し、本年は全米 16 会場となりました。サンフランシスコ会場の受験者定員 600 名は、ロサンゼルス会場の 700 名に次ぎ、Ann Arbor, Michigan と並んで 2 番目の規模です。また、特別措置を必要とする受験者も例年数名おります。このように大規模になりますと、NCJTA 会員の先生には今年度も試験監督をお願いしなければなりません。何卒、本年も引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

日本語能力試験は、2010 年度から新試験形式を採用し、従来の 4 レベルから 5 レベル、N1（Advanced）、N2・N3（Intermediate）、N4・N5（Beginner）となっています。新試験形式は従来の 3 級と 2 級の難易度に大きな隔たりがあるという批判に対応したもので、コミュニケーションをよりいっそう重視した試験にするという意図もあります。おかげさまで、新試験形式導入以来 5 年以上が経過し、受験者にも定着してまいりました。試験科目は、「言語知識（文字・語彙・文法）」「読解」「聴解」の 3 セクションに大別できますが、最も難易度の高い N1 と、その次に難易度の高い N2 では「言語知識」と「読解」が一つの試験科目として 1 セクション、つまり、全体で 2 セクションです。ご注意ください。ちなみに、受験願書の受付期間は 8 月 29 日から 10 月 3 日となっていました。

（サンフランシスコ州立大学　南 雅彦）

先生の紹介欄

柴田由美子先生

- **お名前を教えてください。**
  柴田由美子です。
- **教えている学校名、町を教えて下さい。**
  この秋からカリフォルニア大学デービス校で教えています。その名の通り、キャンパスはカリフォルニア州デービス市にあります。
- **日本語教師はいつから？**
  2010 年秋からです。
- **ご趣味は？**
  趣味は、水泳やヨガなど、自分のペースでできる運動です。ミュージカルや、コンサートに行くのも好きです。
- **日本の出身地は？**
  生まれたのは北海道室蘭市ですが、育ったのは京都府宇治市です。お茶や平等院鳳凰堂で有名な場所です。
- **アメリカに来てから何年ですか。**

7 年目に入りました。

- **仕事について、何か一言お願いします。**
  毎日の授業を通して、私自身が学ぶことも多くあります。教える立場であっても、学生の意見や視点を柔軟に受け入れる姿勢を忘れずに、教師として、そして人として成長し続けたいと考えています。
- **会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。**
  多くの先生方と意見交換をしたいと思っています。学会やワークショップなどでお会いすることもあるかと思います。よろしくお願い致します。

武内和秀先生

- **お名前を教えてください。**
  武内和秀と申します。
- **教えている学校名、町を教えて下さい。**
  UC Davis で教えております。
- **日本語教師はいつから？**
  今年で 2 年目です。
- **ご趣味は？**
  月並みですが、美味しいもの食べることです。それと、食べたいものを食べられるように運動です。
- **出身地は？**
  愛知県春日井市（名古屋市のすぐ隣、そしてイチローの実家も隣町）です。
- **アメリカに来てから何年ですか。**
  大学からなので、かれこれ十数年になりました。
- **仕事について、何か一言お願いします。**
  学部生の時に友人がたまたま日本語をとっていた縁で関わり始めた日本語教育が、仕事になりました。常に好奇心を緊張感を忘れずに、でも楽しんで教えていきたいと思っています。
- **会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。**
  日本語教師 2 年目、まだまだ勉強することがたくさんです。先輩先生方から色んなことを盗めればと思っております。よろしくお願いします。

学校からの

私の学校でこんなことが……
（先着順）

George Washington
High School
森川知計先生

George Washington HS students (SF) enjoyed the annual scavenger hunt event with Osaka & Waseda University students (September 8, 2016)

UC バークレー
小松紀子先生

Advanced Japanese for Heritage students 2016 の学生有志が、日米のコミュニケーションスタイルの違いに焦点を当てスクリプトを書き下ろし演じました。（Words In Action, U.C.Berkeley)

編集後記

ご意見、ご示唆等、ございましたら、どうぞ下記までご連絡下さい。
ニュースレターは、年に二回の発行ですが、NCJTA のフェイスブックも始まりました。そちらの方もどうぞ。
神原：wkambara@berkeley.edu
清水：masakoshimizu@sbcdglobal.net

北加日本語教師会
連絡先

NCJTA Officers

＜事務局＞
http://www.ncjta.org/
NCJTA. c/o Nagata Noriko
Modern and Classical Languages, Kalmanovitz Hall 382
University of San Francisco
2130 Fulton Street, San Francisco, CA 94117-1080
E-mail: nagatan@usfca.edu

＜役員＞
会長： Noriko Nagata　永田憲子(同上)

副会長：Masahiko Minami　南雅彦
San Francisco State University
E-mail: mminami@sfsu.edu

書記：Kyoko Suda　須田恭子
University of San Francisco
E-mail: sudak@usfca.edu

会計：Seiko Kosaka 高坂聖子
City College of San Francisco
E-mail: seikogon@gmail.com

メール名簿：Koraku Mikami　三上香楽
Eimei University
E-mail: tmfrontier@gmail.com

ニュースレター編集：Wakae Kambara　神原若枝
University of California, Berkeley
E-mail: wkambara@berkeley.edu

広報: Masako Shimizu O'Bryan　清水オブライアン真佐子
E-mail: masakoshimizu@sbcdglobal.net

フランク連絡員: Masahiko Minami　南雅彦
San Francisco State University
E-mail: mminami@sfsu.edu
Nobuko Takamatsu　高松信子
E-mail: nobukot@sbcglobal.net

ウェブ担当: Koraku Mikami　三上香楽
Eimei University
E-mail: tmfrontier@gmail.com

＜各レベル代表＞
小学校代表：Kaori Waki　和氣かおり
Rosa Parks JBBP Elementary School
E-mail: kwaki@sbcglobal.net

中学校代表：Rie Tanaka　田中理恵
Presidio Middle School
Email: rietanaka@gmail.com

高校代表：Tomokazu Morikawa　森川知計
George Washington High School
E-mail: tomokazu28@gmail.com

学園代表：Yoko Uda 宇田陽子
Soko Gakuen
E-mail: yokouda_n@yahoo.co.jp

コミュニティーカレッジ代表： Nobuko Takamatsu　高松信子
City College of San Francisco
E-mail: nobukot@sbcglobal.net

大学代表： Junko Ito 伊藤潤子
University of California, Davis
E-mail: jito@ucdavis.edu

Northern California Japanese Teachers' Association

北加日本語教師会

会費納入/新会員登録用紙

前年度もしくは前々年度分未納入の方は、過去にさかのぼってご請求いたしませんので、是非とも今年度分からお支払いいただけますよう、お願い申し上げます。2016 年度分の会費は 2016 年 1 月 1 日から 2016 年 12 月 31 日まで有効となっております。

年会費　一般 $15、学生 $5　　Check payable to: NCJTA

Mail to: Seiko Kosaka
Dept. of Modern Languages, San Francisco State University
1600 Holloway Avenue, San Francisco, CA 94132

（新規・継続）どちらかにマルをつけてください。

Name: _____

Affiliation: _____

School/office Address: _____

Home Address: _____

E-mail: Home: _____ Work: _____

Phone: Home: _____ Work: _____

1) 受理確認メール（要・不要）　　2) 領収書（要・不要）どちらかに〇をつけてください。

……き……り……と……り……線……

住所変更/氏名変更等届出用紙

下記のうち該当する変更事項を〇で囲み、必要な情報を書き入れてください。変更のない方は、提出の必要はありません。

Mail to: Seiko Kosaka
Dept. of Modern Languages, San Francisco State University
1600 Holloway Avenue, San Francisco, CA 94132

1. 氏名の変更　旧氏名（漢字/カタカナ）：
（英語）：
新氏名（漢字/カタカナ）：
（英語）：

2. 住所変更/勤務先変更（新しい情報だけご記入ください。）

Name: _____

Affiliation: _____

School/office Address: _____

Home Address: _____

E-mail: Home: _____ Work: _____

Phone: Home: _____ Work: _____